

表 シカゴ連銀経済報告(2022年3月2日公表)

項目	動向	関係者報告・背景
雇用と賃金	雇用は大幅に(strong pace)増加 賃金は大幅に(robustly)上昇	熟練、非熟練を問わず労働者を見つけるのが困難な状況が続いているが、2021年第4四半期よりも労働者を見つけるのが容易との報告もみられた。人手不足のため、多くの企業が旺盛な需要に見合うだけの生産量を確保できず、ある建設業界関係者は、高い技能を持つ労働者の確保が難しいため、低い技能を持つ労働者に頼ることが多くなり、生産性が低下していると報告した。また、オミクロンのまん延により欠勤が増え、生産が停滞しているものの、一般的に労働者の復帰は早い傾向にあるとの指摘もみられた。募集職種への応募者が少ないため、多くの企業が賃金の引き上げに踏み切ったが、全ての企業が募集職種を満たすことができたわけではなく、労働者を引きとめるため、多くの雇用主は昇給の頻度を増やした。
物価	全体的に急速に(rapidly)上昇	生産者価格は、材料費、労務費、輸送費などのコスト上昇の転嫁により、大きく上昇した。しかし、製造業の一部の関係者からは、鉄鋼や海外輸送コスト増が緩和され、価格圧力はピークに達したように見えるとの声が聞かれた。消費者価格は概して堅調に推移し、堅調な需要、限られた在庫、コスト上昇、コスト上昇分の顧客への転嫁能力の向上が上昇要因として挙げられた。
個人消費	控えめに(modestly)増加	オフィス家具や建材、家電のほか、外食需要の減少により食料品の売り上げが増加しているとの報告がみられた。家庭用家具や電子機器は売り上げがやや減少。自動車販売台数は若干増加し、また、オミクロン変異株による影響を受けつつも、期待を上回る販売となった。季節調整済の小型自動車販売台数は増加したが、在庫水準が低いため、販売は引き続き制限されている。販売店の利益率は、車両価格の上昇を反映し、引き続き高い水準となった。レジャーとホスピタリティ支出は横ばいとなった。
企業支出	控えめに(modestly)増加	小売在庫は、国内外のサプライチェーンの課題により多くのセクターで低水準にとどまっており、2022年後半まで続くとみられている。アパレルや食品・飲料の在庫が特に影響が大きい。製造業の在庫はいくらか増加したが、引き続き投入資材が不足しているとの報告がみられた。輸送サービスに対する需要は、業界がフル稼働を続けているため、ほとんど変化がなかった。設備投資は緩やかに増加し、技術的なアップグレード(新しい自動化装置など)や施設の拡張が目された。設備投資のリードタイムは引き続き長くなっている。住宅用および商業用エネルギー消費量は増加した。産業用エネルギー消費は、製造業の稼働率上昇に伴い、若干の増加が見られた。
建設と不動産	わずかに(slightly)増加	住宅用、非住宅用建築ともに人手不足と資材調達の遅れが続き、完成時期が延びている。住宅用建築はわずかに増加し、受注残も引き続き増加した。ある住宅メーカーは、旺盛な需要により、春の建築シーズンがすでに始まっているように感じられると述べた。住宅用不動産業は、供給の制約から横ばいとなった。非住宅建築はわずかに増加し、オフィスの増築プロジェクトに対する需要が高まっているとの報告がみられた。商業用不動産は、工業用ビルや集合住宅への旺盛な需要に支えられ、わずかに増加した。商業用不動産の賃料と空室率は横ばいだったが、サブリース物件の空室率は緩やかに上昇した。
製造業	控えめに(modestly)増加	大半のメーカーで需要は旺盛だったものの、投入資材(特に労働力)の確保が困難なため生産能力の制約があり、生産の伸びは限定的だった。自動車生産は、組立メーカーやサプライヤーがマイクロチップやその他の資材の不足に引き続き直面したため、わずかに減少した。大型トラックの需要は高水準で堅調に推移し、在庫の逼迫が価格を押し上げた。鉄鋼は、エネルギーや建設向けの需要が伸長し、生産量は増加した。鉄鋼は、大量の輸入と国内稼働率の上昇により稼働率が上昇した。建材需要は、商業・住宅建設向けの堅調な受注に支えられ、緩やかに増加した。
金融	やや悪化(deteriorated)	株式・債券市場ではボラティリティの上昇と資産価値の純減が報告された。ビジネスローンの需要は横ばいで、案件獲得のための激しい競争が引き続き報告された。企業向けローンの質は高く、わずかに改善し、企業向けローン基準は多少緩和された。消費者市場では、ローン需要は全体的に横ばいとなった。住宅ローンの借り換えが減少した以外は、各セクターでほぼ横ばいだった。また、自動車ローンの量は減少したものの、貸出額が十分に増加したため、自動車ローンのドル建て貸出額が増加したとの報告がみられた。消費者ローンの質および基準は変化していない。
農業	(農産物価格の上昇により)所得は向上と予測、 投入コストも上昇	トウモロコシと大豆の価格は引き続き上昇したが、エネルギー、肥料、除草剤の価格が上昇し、サプライチェーンの問題で作付け時期に入手できるか懸念される。新しいトラクターの納入も遅れている。牛、豚、卵、牛乳の価格は再び上昇した。農業ローンへの需要は1年前より低くなった。農地価格は2021年にほぼ10年ぶりの上昇となり、2022年初頭にも継続的な上昇が見込まれる。

(出所)シカゴ連銀経済報告を基にジェトロ作成